

(注)「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意願います。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付となっています。

コモロ連合月報（2025年6月）

《要点》

【内政】

●16日 Al Watwan 紙によれば、15日、アザリ大統領は、モヘリ島のアンジュアンに所在するコモロ大学において開催された教育改革に関する作業報告ワークショップに出席し、「教育に関する全国会議（ANTE）」の発足を正式に発表した。なお、同会議自体は5月末から開始されている。また、同会議は、コモロ発展計画と平仄を合わせた形で教育制度を再考することを目的としている。

【外政】

●4日 コモロ各紙によれば、グランコモロ島の道路の改修工事継続及び延伸工事に関する契約が中国企業 CGC 社と締結された。同工事期間は19か月間。

●10日 コモロ各紙によれば、9日から13日までニースで開催されている第3回国連海洋会議に参加しているアザリ大統領は、9日マクロン大統領と会談。マイヨット問題などが協議されたとのこと。

●13日 Al Watwan 紙によれば、9日から28日まで北京において、アフリカの伝語圏ジャーナリストに対し、メディアの社会的責任と中国の開発モデルをテーマにした研修が実施されており、コモロからはジェンダー推進・連帯・情報省から職員2名および Al Watwan 紙の記者1名が参加している。

●16日 Al Watwan 紙は、「中国・コモロ破砕会社」が、首都モロニにおいて、70人以上の若者を雇用し首都の清掃活動に従事させることを通じ社会貢献を実現していると報道している。

●20日 La Gazette 紙によれば、昨年9月に北京で開催された中国アフリカ協力フォーラム（FOCAC）のフォローアップの一環で訪中していたムストファ経済・産業・投資大臣が帰国。中国訪問中には中国の国際開発協力庁の総局長と会談し両国の関係が強化されたと述べた。

●23日 コモロ各紙によれば、21日、アザリ大統領は、離任を間近に控えた郭志軍中国大使に対し、コモロの最高勲章の一つである「緑の三日月勲章」コマンドウールの称号を授与するとともに、ベイト・サラーム宮殿で送別会を実施した。多くの政府高官及び外交団も出席。

●24日 La Gazetta 紙によれば、20日、モヘリ島のニウマチヨイ（Niumachoi）において、給水プロジェクトの起工式が開催された。ヌール・エル＝ファス・アザリ政府事務総長らが出席。同プロジェクトは、AFD による6億コモロ・フランの支援の下、中

国企業の CGC が実施するもの。なお、工事完成後の施設管理は中国企業の SONEDE が行う。

●24 日 Al Watwan 紙によれば、郭志軍中国大使は、モロニに所在するムヴニ大学を訪問し、遠隔教育用設備を供与。同設備は 9 月からオンラインで受講可能な中国語講座受講に使用されとのこと。

【経済】

●3 日 Al Watwan 紙によれば、2 日、国営通信会社のコモロ・テレコムが、5G の正式な立ち上げを発表。発表会にはアザリ大統領、各国大使が出席した。

【社会】

●16 日 Al Watwan 紙によれば、5 月 28 日から、国家警察は、右ハンドル車の強制回収作戦を開始。2020 年に制定された道路交通法第 249 条は、右ハンドル車の通行を禁止していたものの、ほとんど適用されてこなかったとのことで、ドライバーの間で多くの反発を招いているとのこと。

●26 日 Al Watwan 紙によれば、マラリアの感染率が上昇しており、2024 年には 55,277 件の感染が確認され、2018～2020 年の 3 年間の累計 42,076 件を大きく上回っているとのこと。なお、2024 年の感染件数のうちの 54,413 件がグランコモロ島であった点に関し、同島での大規模治療キャンペーンがうまくいかず、封じ込めに失敗し異常な感染拡大につながったと分析するある医師の見解が掲載されている。

1 内政

5 日 La Gazette 紙によれば、「バシヤール事件」関連で、アザリ大統領の外交顧問が裁判所の管理下に置かれたとのこと。「バシヤール事件」とは、コモロの有名ブロガーであるヌルディン・ムムパルティ（Nouridine M'Mparti）（通称「バシヤール」）が、ナジャダ・サイド・アブドラ（Najda Said Abdallah）計画担当コミッショナーに対して名誉毀損とサイバーハラスメントの容疑で起訴された事件のこと

（<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/affaire-bachar-le-conseiller-diplomatique-d%E2%80%99azali-sous-contr%C3%B4le-judiciaire-.html>）。

7 日 Al Watwan 紙によれば、6 日、モロニの刑事裁判所において、「バシヤール事件」の初公判が非公開で行われた。同裁判には、アリ・イブロイ（Ali Ibouroi）元エネルギー大臣、アブドルファタ・サイド・モハメド（Abdoulfatah Said Mohamed）元国会議員、アブドウ・サイド・ムダホマ（Abdou Said Mdahoma）元議員とその妹も被告として出廷した。アブドウ・イリヤッサ（Aboudou Illiassa）財務大臣特別顧問は欠席。判決は 12 日に言い渡される予定（<https://alwatwan.net/societe/bachar-premier->

[proc%C3%A8s-le-parquet-requier-6-ans-de-prison-ferme-contre-nourdine-m%E2%80%99mparti.html](https://alwatwan.net/proc%C3%A8s-le-parquet-requier-6-ans-de-prison-ferme-contre-nourdine-m%E2%80%99mparti.html))。

16日 Al Watwan 紙によれば、15日、アザリ大統領は、モヘリ島のアンジュアンに所在するコモロ大学において開催された教育改革に関する作業報告ワークショップに出席し、「教育に関する全国会議（ANTE）」の発足を正式に発表した。なお、同会議自体は5月末から開始されている。また、同会議は、コモロ発展計画と平仄を合わせた形で教育制度を再考することを目的としている

(<https://alwatwan.net/education/assises-nationales-sur-l%E2%80%99%C3%A9ducation-i-les-travaux-techniques-insulaires-restitu%C3%A9s-hier-%C3%A0-mutsamudu.html>)。

18日 Al Watwan 紙によれば、12日、地方議員4名は、国家人権と自由委員会（CNDHL）に対し、アフマド＝ハシム・サイド・ハッサン氏が2日から2週間以上法的根拠なく拘束され続けており、また同氏の健康状態が悪化していることから、即時の解放もしくは被拘束者としての基本的人権の尊重を求めた。なお、同氏はコメ販売公社（ONICOR）との間で供託金の返還を求めた裁判に勝訴したものの、同局が返還しておらず、返還が履行されていないことに対する抗議をするために憲兵隊事務所に向いたものと考えられ、その場で拘束された

(<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/d%C3%A9tention-d%E2%80%99ahmed-hachim-4-%C3%A9lus-municipaux-saisissent-la-commission-des-droits-de-l%E2%80%99homme-.html>)。

18日 La Gazetta 紙によれば、13日、モハメド内務・地方分権化・国土行政大臣は、公共交通運輸従事者で構成される全国組合「Usukani wa Masiwa」と会談。交通セクターの円滑な運行について協議した

(<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/transport-en-commun-le-ministre-de-l%E2%80%99int%C3%A9rieur-a-rencontr%C3%A9-usukani-wa-masiwa-.html>)。

2 外政

2日 Al Watwan紙によれば、5月31日、アザリ大統領は、アフリカの日を祝った。式典には閣僚、各国大使、アフリカ連合代表が出席した
(<https://alwatwan.net/societe/journ%C3%A9e-de-l%E2%80%99afrique-i-les-comores-c%C3%A9l%C3%A8bre-la-m%C3%A9moire-politique-du-continent.html>)。

4日 コモロ各紙によれば、グランコモロ島の道路の改修工事継続及び延伸工事に関する契約が中国企業CGC社と締結された。同工事期間は19か月間
(<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/axe-bandamadji-%E2%80%93-foumbouni-l%E2%80%99%C3%A9tat-investit-8,7-milliards-pour-19-km-de-route-.html>)。

7日 Al Watwan紙によれば、6日、モハメド内務・地方分権化・国土行政大臣は、ジュネーブで開催された「第8回災害リスク削減に関するグローバル・プラットフォーム

(GP2025)」に参加した ([https://alwatwan.net/societe/r%C3%A9ductions-des-risques-de-catastrophes-\(gp2025\)-i-les-comores-s%E2%80%99impr%C3%A8gnent-%C2%ABdes-meilleures-pratiques%C2%BB-%C3%A0-gen%C3%A8ve.html](https://alwatwan.net/societe/r%C3%A9ductions-des-risques-de-catastrophes-(gp2025)-i-les-comores-s%E2%80%99impr%C3%A8gnent-%C2%ABdes-meilleures-pratiques%C2%BB-%C3%A0-gen%C3%A8ve.html))。

7日 Al Watwan紙によれば、3日、モーリシャスにおいて、駐モーリシャス・コモロ総領事は、モーリシャス教育大臣と会談し、教育分野における二国間関係の強化を図るとともに、特にコモロ人の学生のモーリシャス高等教育機関への進学について協議を行った (<https://alwatwan.net/politique/comores-maurice-i-une-rencontre-pour-recadrer-le-partenariat-%C3%A9ducatif.html>)。

10日 コモロ各紙によれば、9日から13日までニースで開催されている第3回国連海洋会議に参加しているアザリ大統領は、9日マクロン大統領と会談。マイヨット問題などが協議されたとのこと (<https://alwatwan.net/politique/3%C3%A8me-conf%C3%A9rence-des-nations-unies-sur-l%E2%80%99oc%C3%A9an-i-azali-assoumani-a-%C3%A9t%C3%A9-re%C3%A7u-hier-par-son-homologue-fran%C3%A7ais.html>)。

11日 La Gazette紙によれば、9日、モロニにおいて、コモロ共和国情報通信技術協会 (ACTIC) は「デジタル分野の職業訓練を受けよう」プログラムを実施。同プログラムは、仏語圏国際機構 (OIF) の支援により実施された (<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/num%C3%A9rique-l%E2%80%99actic-forme-la-jeunesse-%C3%A0-travers-le-programme-d-clic-.html>)。

13日 Al Watwan紙によれば、11日、国民健康保険制度導入支援プロジェクトの進捗状況に関する報告会が実施された。同プロジェクトは、フランス開発庁 (AFD) から1,600万ユーロ (約80億フラン) の支援を受け実施されている。なお、コモロ政府は、同プロジェクトに対し2023年から10億フランの予算を投じている ([https://alwatwan.net/sante/assurance-maladie-g%C3%A9n%C3%A9ralis%C3%A9e-\(amg\)-i-lancement-de-la-campagne-d%E2%80%99affiliation-avant-la-fin-du-mois.html](https://alwatwan.net/sante/assurance-maladie-g%C3%A9n%C3%A9ralis%C3%A9e-(amg)-i-lancement-de-la-campagne-d%E2%80%99affiliation-avant-la-fin-du-mois.html))。

13日 Al Watwan紙によれば、9日から28日まで北京において、アフリカの仏語圏ジャーナリストに対し、メディアの社会的責任と中国の開発モデルをテーマにした研修が実施されており、コモロからはジェンダー推進・連帯・情報省から職員2名およびAl Watwan紙の記者1名が参加している (<https://alwatwan.net/societe/coop%C3%A9ration-sino-africaine-i-renforcement-de-la-coop%C3%A9ration-autour-des-m%C3%A9dias-et-du-commerce.html>)。

16日 Al Watwan紙は、「中国・コモロ破産会社」が、首都モロニにおいて、70人以上の若者を雇用し首都の清掃活動に従事させることを通じ社会貢献を実現していると報道している (<https://alwatwan.net/societe/gestion-des-d%C3%A9chets-%C3%A0-moroni-avec-la-sccc-i-des-jeunes-retrouvent-l%E2%80%99espoir-dans-la-proprete%C3%A9.html>)。

16日 La Gazette 紙によれば、9日に、グランコモロ島のイツァンドラにおいて、国連カントリーチームの年次リトリートが開始された。コモロおよびマダガスカルに拠

点を置く約 12 の国連機関の代表がヌール・エル＝ファス・アザリ（Nour El-Fath Azali）政府事務総長らコモロ政府代表団と意見交換

（<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/retraite-des-nations-unies-les-comores-et-nations-unies-passent-au-crible-leur-coop%C3%A9ration-.html>）。

17日 Al Watwan紙によれば、アフリカ開発銀行の技術ミッションがコモロに到着し、モハメド内務・地方分権化・国土行政大臣が出迎えた。同ミッションは、コモロの民間防災機関（Dgsc）の能力評価及び気候災害リスク管理プロジェクトの実施に向けた条件整備を行う（<https://alwatwan.net/societe/comores-bad-i-une-mission-d%E2%80%99C3%A9valuation-des-capacit%C3%A9s-de-la-s%C3%A9curit%C3%A9-civile.html>）。

18日 Al Watwan紙によれば、15日、アフリカ子どもの日を記念し、コモロ・スカウト団は、インド洋気候ネットワーク及び国連児童基金（UNICEF）の支援を受け、グランコモロ島のンツァウェニ（Ntsaweni）海岸において大規模な清掃活動を行った（<https://alwatwan.net/societe/journ%C3%A9-de-l%E2%80%99enfant-africain-i-les-scouts-des-comores-mobilisent-les-enfants-pour-nettoyer-le-littoral-de-ntsaweni.html>）。

18日 La Gazette紙によれば、12日、モヘリ島において、国連人間居住計画（UN-Habitat）の支援を受け、コモロ政府が作成したモヘリ島向けの「気候変動適応ガイド」が発表された。同ガイドを基に、モヘリ島は災害への備えを進める（<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/moh%C3%A9li-face-aux-d%C3%A9fis-climatiques-un-guide-communautaire-pour-renforcer-la-r%C3%A9silience-urbaine-.html>）。

19日 Al Watwan紙によれば、12日、欧州連合（EU）の支援を受け実施された市民社会の再編及び活性化プロジェクトが、2日間のセミナーを終え、終了した。セミナーでは、団体関係者の能力強化、新たな組織の設立、廃棄物管理やコミュニティ内の平和促進における持続可能な支援の検討が行われた（<https://alwatwan.net/societe/journ%C3%A9-de-l%E2%80%99organisation-de-la-soci%C3%A9t%C3%A9-civile-i-un-projet-pour-redynamiser-et-structurer-les-associations-locales.html>）。

20日 La Gazette紙によれば、昨年9月に北京で開催された中国アフリカ協力フォーラム（FOCAC）のフォローアップの一環で訪中していたムストファ経済・産業・投資大臣が帰国。中国訪問中には中国の国際開発協力庁の総局長と会談し両国の関係が強化されたと述べた（<https://www.lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/partenariat-sino-comorien-6-projets-prioritaires-soumis-%C3%A0-p%C3%A9kin-.html>）。

23日 コモロ各紙によれば、21日、アザリ大統領は、離任を間近に控えた郭志軍中国大使に対し、コモロの最高勲章の一つである「緑の三日月勲章」コマンドゥールの称号を授与するとともに、ベイト・サラーム宮殿で送別会を実施した。多くの政府高官及び外交団も出席（<https://alwatwan.net/societe/fin-de-mission-pour-guo-zhijun-i-le->

[diplomate-%C3%A9lev%C3%A9-au-rang-de-commandeur-de-l%E2%80%99ordre-du-croissant-vert.html](#))。

23日 Al Watwan紙によれば、20日、アンジュアン島のニューマシュワ（Nyumashuwa）地区の配水管改修工事が開始された。同工事は、水分野のガバナンス強化を目指す Progeau プロジェクトの一環で実施され、12か月継続する。同プロジェクトはフランス開発庁（AFD）による6億コモロ・フランの支援を受けている

（<https://alwatwan.net/societe/nyumashuwa-lancement-des-travaux-pour-%C2%ABunacc%C3%A8s-durable%C2%BB-%C3%A0-l%E2%80%99eau-potable.html>）。

23日 Al Watwan紙によれば、土木工事総合請負会社（Egt）は、モロニに工業部品加工訓練センターを開設した。同センターはAFDがExpertise Franceを通じ支援を実施している。既に24人（女性4名、障害者1名を含む）の受講者が参加している（<https://alwatwan.net/societe/formation-technique-le-centre-d%E2%80%99usage-de-l%E2%80%99egt-inaugur%C3%A9.html>）。

23日 コモロ各紙によれば、13日から19日において、グランコモロ島において、魚群集魚装置（DCP）の保守と管理に関する一週間の集中研修が20名の沿岸漁業者に対し実施された。同研修は、インド洋委員会（COI）がEUおよびコモロ政府の支援を受け展開する「ECOFISHプログラム」の一環で行われたもの

（<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/p%C3%Aache-artisanale-des-p%C3%Aacheurs-mieux-outill%C3%A9s-pour-une-p%C3%Aache-durable-.html>）。

24日 Al Watwan紙によれば、21日、EUとAFDの支援を受け、Expertise Franceが実施する「財務ガバナンス支援プロジェクト（Pagf）」の一環で、モヘリ島のニャウマシュワ（Nyumashuwa）に税務総局の新支局が開設された

（<https://alwatwan.net/societe/direction-g%C3%A9n%C3%A9rale-des-imp%C3%B4ts-i-un-nouveau-sous-centre-fiscal-inaugur%C3%A9-%C3%A0-nyumashuwa.html>）。

24日 La Gazette紙によれば、20日、モヘリ島のニウマチョイ（Niumachoi）において、給水プロジェクトの起工式が開催された。ヌール・エル＝ファス・アザリ政府事務総長らが出席。同プロジェクトは、AFDによる6億コモロ・フランの支援の下、中国企業のCGCが実施するもの。なお、工事完成後の施設管理は中国企業のSONEDEが行う（<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/nioumachoi-un-nouveau-souffle-pour-l%E2%80%99acc%C3%A8s-%C3%A0-l%E2%80%99eau-potable-.html>）。

24日 Al Watwan紙によれば、郭志軍中国大使は、モロニに所在するムヴニ大学を訪問し、遠隔教育用設備を供与。同設備は9月からオンラインで受講可能な中国語講座受講に使用されるとのこと（<https://alwatwan.net/education/coop%C3%A9ration-universitaire-i-la-chine-outille-l%E2%80%99udc-pour-des-cours-%C3%A0-distance.html>）。

24日 国際通貨基金（IMF）は、コモロとの拡大信用供与制度（FEC）の第4回レビューを承認し、約487万ドルの即時支援を決定。これにより、356万SDR（特別引出権）（約

487万米ドル) の即時支払いが可能となる

(<https://www.imf.org/fr/News/Articles/2025/06/24/pr25215-comoros-imf-completes-the-fourth-review-under-the-extended-credit-facility-arrangement>) 。

26日 Al Watwan紙によれば、グランコモロ島のBahani-Gte間の道路建設工事が中国企業「威海国際経済合作公司」により進行中で、6か月の工期を厳守すべく作業を加速させているとのこと (<https://alwatwan.net/societe/route-bahani-gte-i-des-travaux-%C2%ABen-bonne-voie%C2%BB.html>) 。

30日 Al Watwan紙によれば、シルヴァン・リキエ (Sylvain Riquier) フランス大使及びグリ・ニコラス (Guri Nicolas) AFD副長官は、教育や雇用等の構造改革プロジェクトを支援することを目的とする3つの協定に署名。署名式には、イブラヒム財務・予算・銀行部門大臣や国民教育・科学研究・研修・職業統合省次官、雇用センター所長らが出席。支援するプロジェクトは、①学校環境改善プロジェクトの完了に向けた追加支援 (800万ユーロを追加支援)、②雇用支援プログラム「Facilité Emploi」の第2フェーズ (500万ユーロ)、③全国の高校におけるスポーツへのアクセスを改善する「PEPS 2 (体育・スポーツ支援)」 (120万ユーロ) (<https://alwatwan.net/societe/coop%C3%A9ration-franco-comorienne-i-14,2-millions-d%E2%80%99euros-pour-l%E2%80%99%C3%A9ducation,-l%E2%80%99emploi-et-la-jeunesse.html>) 。

3 経済

2日 Al Watwan紙によれば、5月31日、国営通信業者コモロ・テレコムは、設立20周年を記念し、ネットワーク・オペレーション・センター及び商業スペースを新たに開設した。同開設式典にはウムリ郵政・通信・デジタル経済・透明性大臣が出席した (<https://alwatwan.net/societe/vingti%C3%A8me-anniversaire-de-comores-telecom-i-la-soci%C3%A9t%C3%A9-inaugure-un-nouvel-espace-commercial.html>) 。

2日 La Gazette紙は、Yas Comoresのクリストフ・オリヴィエ (Christophe Olivier) 社長へのインタビュー記事を掲載。同氏は、今後、4Gへの大規模な投資及び6月から7月までに通信状況の改善を約束した (<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/interview,-christophe-olivier,-directeur-g%C3%A9n%C3%A9ral-yas-comores-%C2%AB-nous-allons-avoir-une-4g-plus-fluide-dans-les-prochaines-semaines-sur-l%E2%80%99ensemble-du-territoire-%C2%BB-.html>) 。

3日 Al Watwan紙によれば、2日、国営通信会社のコモロ・テレコムが、5Gの正式な立ち上げを発表。発表会にはアザリ大統領、各国大使が出席した (<https://alwatwan.net/societe/comores-telecom-i-lancement-officiel-de-la-5g-et-la-mise-en-service-d%E2%80%99un-r%C3%A9seau-sans-fil-haut-d%C3%A9bit.html>) 。

3日 コモロ各紙によれば、経済・産業・投資大臣、経済統合省は5月31日、2024年12月12日に開催された官民対話 (Dialogue Public Privé : Ddp 2024) の最終報告書の承認に

向けた官民アクターの協議を開催した（<https://alwatwan.net/societe/dialogue-public/priv%C3%A9-i-vers-la-validation-du-rapport-final-des-discussions.html>）。

10日 Al Watwan紙によれば、5月27日、国土整備・都市開発省は、モヘリ島のMbwangoma港工事のためのドモニの採石場の操業再開を承認した。同採石場は、地質・地物理学的調査の分析結果が出るまで採掘が停止されていた

（<https://alwatwan.net/societe/r%C3%A9habilitation-du-port-de-mbwangoma-i-le-gouvernement-choisit-d%E2%80%99exploiter-la-carri%C3%A8re-de-domoni.html>）。

14日 La Gazette紙によれば、14日、モロニに最新設備を備えた新たな自動車整備工場「Komor Auto Motors」が開店。最新鋭の整備・診断設備を備え、あらゆる車種、特に最新モデルにも対応可能で、診断技術と電子システム修理、機械整備、定期点検など、車両全体をカバーする総合サービスを提供する。スタッフ15名のほとんどが海外で研修を受けているとのこと（<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/komor-auto-motors-un-nouveau-garage-moderne-ouvre-ses-portes-.html>）。

4 社会

2日 Al Watwan紙によれば、5月31日、グランコモロ島で開催されていた第8回ゴンベッサ（Gombessa）・フェスティバルが閉会し、アザリ大統領も閉会式に出席した。同フェスティバルでは、音楽、ダンス、演劇、文学など多彩なプログラムが展開された（<https://alwatwan.net/culture/fermeture-de-gombessa-festival-i-le-chef-de-l%E2%80%99etat,-azali-assoumani,-salue-les-%C2%ABefforts-fournis-par-les-organisateurs%C2%BB.html>）。

2日 Al Watwan紙によれば、5月28日、グランコモロ島の国立文献研究センターにおいて、ティエリ・メルベール（Thierry Melbert）インド洋子育て観察所所長が会議を開催し、現代社会における親子関係の質の重要性や、離婚や親の移住による教育の断絶、望まれない子どもや親の準備不足が子どもの発達に与える影響などについて協議した（<https://alwatwan.net/societe/conf%C3%A9rence-sur-la-parentalit%C3%A9-dans-l%E2%80%99oc%C3%A9an-indien-i-enjeux-et-solutions-face-aux-mutations-sociales.html>）。

2日 Al Watwan紙によれば、5月30日、モヘリ島のフォンボニにおいて、道路の整備が行き届いていないことから、タクシー運転手らが自ら道路の穴の修復活動を行った（<https://alwatwan.net/societe/fomboni-des-chauffeurs-de-taxi-bouchent-les-nids-de-poule-pour-sauver-la-route.html>）。

3日 コモロ各紙によれば、モヘリ島のジョエジ（Djwaezi）市は、青少年の非行問題に対応するためのするための地域の監視委員会を設立した

（<https://alwatwan.net/societe/lutte-contre-la-d%C3%A9linquance-juv%C3%A9nile-i-la-ville-de-djwaezi-met-en-place-un-comit%C3%A9-de-veille.html>）。

12日 Al Watwan紙によれば、モヘリ島のアンジュアンに所在するHombo病院の契約職

員が、賃金の未払い、不安定な雇用契約、不適切な労働条件に対する抗議のため、11日から無期限のストライキに入った。賃金の未払いは最大8か月にも及んでいるとのこと（<https://alwatwan.net/sante/h%C3%B4pital-de-hombo-les-contractuels-en-gr%C3%A8ve.html>）。

16日 Al Watwan紙によれば、モロニ市において、清掃活動「モロニ・ウラハフ運動」が実施され、モハメド内務・地方分権化・国土行政大臣やモロニ地区選出議員、モロニ市長等が参加した（<https://alwatwan.net/societe/op%C3%A9ration-nettoyage-de-la-capitale-i-la-mairie-de-moroni-lance-le-mouvement-%C2%ABmoroni-urahafu%C2%BB.html>）。

16日 Al Watwan紙によれば、12日、アザリ大統領は、モヘリ島において、農村部の若者に対する農業、漁業、畜産業分野の職業訓練及び起業支援を目的とした「フォース・ジュネス」プロジェクトの開始を発表。同プロジェクトは、国際農業開発基金（IFAD）から1,000万ドルの支援を受け実施される（<https://alwatwan.net/societe/promotion-de-l%E2%80%99agriculture-et-de-l%E2%80%99entrepreneuriat-i-le-pr%C3%A9sident-azali-lance-le-projet-force-jeunes-%C3%A0-ndzuani.html>）。

16日 Al Watwan紙によれば、5月28日から、国家警察は、右ハンドル車の強制回収作戦を開始。2020年に制定された道路交通法第249条は、右ハンドル車の通行を禁止していたものの、ほとんど適用されてこなかったとのことで、ドライバーの間で多くの反発を招いているとのこと（<https://alwatwan.net/societe/retour-%C3%A0-l%E2%80%99interdiction-des-voitures-%C3%A0-volant-%C3%A0-droite-i-confusion,-sanctions-et-inqui%C3%A9tudes-%C3%A9conomiques.html>）。

17日 Al Watwan紙によれば、16日、グランコモロ島のンツァウェニ（Ntsaweni）憲兵隊の新本部落成式が開催された。ムスタドロワン・アブドウ（Moustadroine Abdou）国民議会議長、ヌール・エル＝ファス・アザリ官房長官などが出席。なお、建設費は5,000万フランと見積もられており、国家開発軍予算から拠出された（<https://alwatwan.net/societe/gendarmerie-nationale-i-un-b%C3%A2timent-flambant-neuf-inaugur%C3%A9-%C3%A0-ntsaweni.html>）。

17日 Al Watwan紙によれば、14日、Nyumbadju-Djoumwashongo友の会は、「Ulanga Unono-Mwema」プロジェクトを始動。薬用植物及び観賞用植物の普及を促進するとともに、グランコモロ島に所在するニユンバジュ森林保護区（Nyumbadju forest reserve）の生物多様性保護を目指すもので、プロジェクト期間は15か月、世界銀行や日本政府等による共同基金であるクリティカル・エコシステム・パートナーシップ基金（CEPF）から支援を受け実施される（<https://alwatwan.net/societe/ulanga-unono-mwema-i-un-projet-de-valorisation-des-plantes-m%C3%A9dicinales-et-cosm%C3%A9tiques.html>）。

18日 Al Watwan紙によれば、17日、人民宮殿において、グランコモロ島知事は、ンガジジャにおける女性と未成年者に対する暴力監視センターの成果報告会を開催。ファテ

イマジェンダー推進・連帯・情報大臣らが出席。なお、2023年にはグランコモロ島だけで247件の被害者が確認された（<https://alwatwan.net/societe/capitalisation-de-l%E2%80%99observatoire-des-vbg-i-%C2%ABil-est-temps-de-passer-%C3%A0-une-action-int%C3%A9gr%C3%A9e,-coordonn%C3%A9e-et-p%C3%A9renne%C2%BB.html>）。

20日 Al Watwan紙によれば、19日、モヘリ島のエコツーリズム地域において開催されたウミガメの日記念イベントにおいて、アザリ大統領は、住民らのウミガメ保護活動及び環境保護活動・ビーチの「ゴミ・ゼロ」に対し支援を行う意向を示した（<https://alwatwan.net/societe/journ%C3%A9e-de-la-tortue-marine-i-un-appel-%C3%A0-prot%C3%A9ger-l%E2%80%99esp%C3%A8ce-et-l%E2%80%99%C3%A9cosyst%C3%A8me-marin-%C3%A0-itsamia.html>）。

20日 La Gazette紙によれば、国家計量局（ONM）は、グランコモロ島で点検を行った商店やガソリンスタンド、商品包装などで使用されている計量器機材の40%以上が基準に不適合であった旨発表した。同局は、正確で公正な測定基準を設け、すべての取引において国際基準に基づいた規制の順守を確保することを目指すとのこと（<https://www.lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/m%C3%A9trologie-plus-de-40-des-instruments-de-mesure-non-conformes-.html>）。

24日 Al Watwan紙によれば、23日、モロニの人民宮殿において、イスラム軍事テロ対策連合（CIMCT）及びコモロ政府は、イマムや宗教機関を対象とした宗教的過激主義に対する能力強化研修の開会式を開催。同研修は27日まで行われる（[https://alwatwan.net/societe/coalition-islamique-militaire-contre-le-terrorisme-\(cimct\)-i-des-imams-form%C3%A9s-%C3%A0-moroni-contre-l%E2%80%99id%C3%A9ologie-terroriste.html](https://alwatwan.net/societe/coalition-islamique-militaire-contre-le-terrorisme-(cimct)-i-des-imams-form%C3%A9s-%C3%A0-moroni-contre-l%E2%80%99id%C3%A9ologie-terroriste.html)）。

25日 コモロ各紙によれば、大学教員全国組合（Sneuc）は、19日からストを開始しており、大学機能が麻痺している。24日には、同組合は記者会見を行い、教員の地位や給与の是正を中心とした要求を語った（<https://www.lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/enseignement-sup%C3%A9rieur-le-sneuc-maintient-sa-gr%C3%A8ve-enseignement-sup%C3%A9rieur-le-sneuc-maintient-sa-gr%C3%A8ve-.html>）

26日 Al Watwan紙によれば、マラリアの感染率が上昇しており、2024年には55,277件の感染が確認され、2018～2020年の3年間の累計42,076件を大きく上回っているとのこと。なお、2024年の感染件数のうちの54,413件がグランコモロ島であった点に関し、同島での大規模治療キャンペーンがうまくいかず、封じ込めに失敗し異常な感染拡大につながったと分析するある医師の見解が掲載されている（<https://alwatwan.net/sante/recrudescence-du-paludisme-i-l%E2%80%99objectif-%C2%ABz%C3%A9ro-cas%C2%BB-%C3%A0-la-fin-de-cette-ann%C3%A9e-est-il-compromis.html>）。

（了）